

東京都江戸川区

「江戸川区公共施設再編・整備計画」 について

江戸川区の概況

- 総面積：49.09平方キロメートル
- 南北：約13キロメートル
- 東西：約8キロメートル

世帯数と人口（2025年10月現在）

世帯数	男	女	計
365,223	350,318	347,025	697,343



公共施設再編・整備計画の対象となる公共施設

行政系施設	庁舎（4）、事務所（5）、保健所等（11）、清掃事務所（3） 防災施設等（6）、その他の行政施設（8）
住宅施設	区営住宅（4）
文化・スポーツ施設	宿泊施設（3）、文化施設（4）、スポーツ施設（15）、共育プラザ等（8）、図書館（12）
コミュニティ施設	コミュニティ会館等（33）、地区会館（47）
福祉施設	くすのきカルチャーセンター（6）、障害者・障害児施設等（21）、なごみの家（9）※ 地域包括支援センター（熟年相談室）（27）※
子育て支援施設	区立保育園（34）、おひさま保育園（23）、児童相談所・育成室等（26）
学校教育施設	区立小学校（66）、区立中学校（32）、区立幼稚園（1）、閉校した小中学校（9） その他の教育関連施設（10）
インフラ施設	道路、橋梁、公園(公園施設等含む)、特定施設、公衆手洗所、水門等 ※上記の公共建築物について、『2-3 施設の適正量シミュレーション』を行うにあたり、インフラ施設の更新・維持管理に 関わる費用も計上し算出しております。

391施設／約109万㎡の床面積

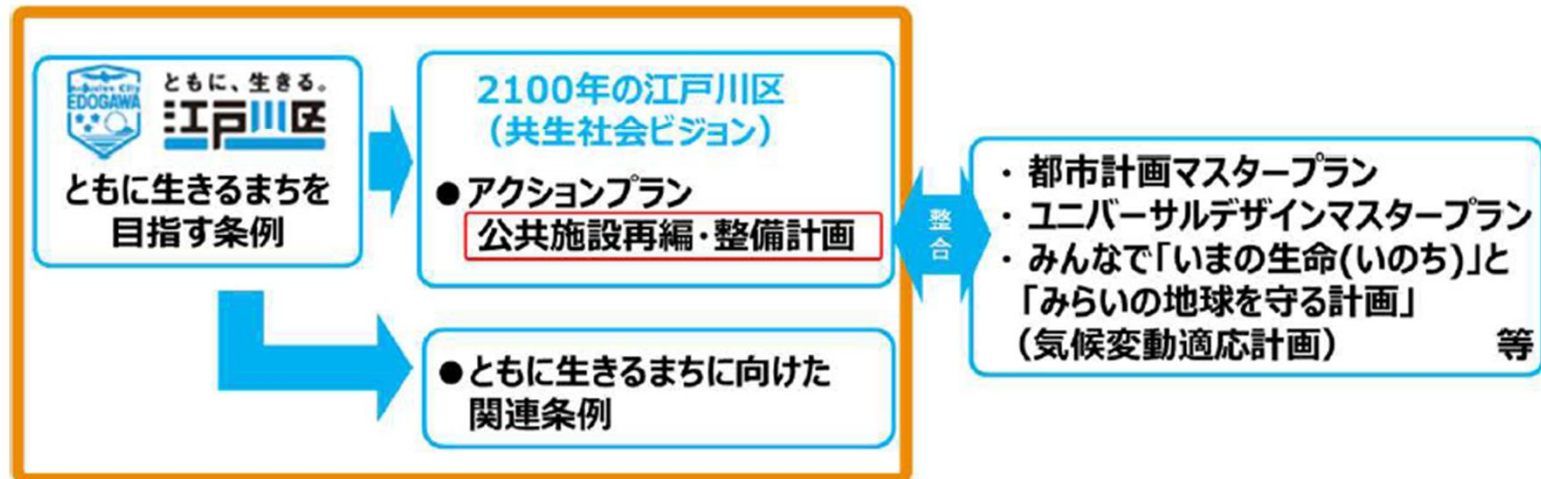
（ ）は施設数

公共施設再編・整備計画策定の必要性

この検討では、将来世代に財政負担が残らない施設適正量の検証や、施設機能の集約と区民の利便性が向上する行政サービスの複合化方針など、これからの公共施設整備におけるポイントを検討し、方向性をお示しします。

将来に向けて財政負担を残さない、そして行政サービスの質を維持・向上させる、
そうした公共施設のあり方を示したものが

「公共施設再編・整備計画」です



「2100年の江戸川区（共生社会ビジョン）」 実現に向けたアクションプラン

目次

(1) これからの江戸川区が目指すところ

～ アクションプランってなに？ ～

(2) 「2100年の江戸川区」実現に向けたアクションプラン

- ① 人とともに生きる
- ② 社会とともに生きる
- ③ 経済とともに生きる
- ④ 環境とともに生きる
- ⑤ 未来とともに生きる

(3) 「不安な未来」を「明るい未来」に変えるために

～ 明るい2100年を迎えるために大切な視点 ～

「共生社会ビジョン」に登場した
“カルガモ”が解説するストーリー



ココ！



4

環境とともに生きる

なりゆきまかせだと...

不安な未来

- 財政規模の縮小や行政職員の減少により、区の魅力の一つである水辺環境や公園などを維持していくことが難しくなってしまいます。
- 区内の自然環境が失われ、生物多様性を確保していくこともできなくなります。
- 気候変動に対する対策をとらなければ、災害の頻発化や激甚化、熱中症の増加、農作物の生育不良など、区内に深刻な影響が及んでしまいます。
- 財政規模の縮小などにより、十分な防災対策ができず、ハード・ソフトの両面で、災害に弱いまちになってしまいます。
- 犯罪件数の割合が増え、治安の悪いまちになってしまいます。

Action!

そうならない
ために...

環境 1 さらなる公園の整備
(区民1人あたり10㎡を目指して)

環境 2 公園の多様性の確保

環境 3 豊かなみどりの維持とさらなる緑化推進

環境 4 新しい時代の「親水」のあり方の検討

環境 5 カーボン・マイナスの実現

環境 6 車中心から人中心の道づくり・公共空間の有効活用

防災 7 みんなが避難できる高台まちづくり

防災 8 浸水被害を最小限に食い止めるまち

防災・防犯 9 災害対応・防犯に欠かせない地域の力

防災・防犯 10 災害対応・防犯に係る新技術の活用

防災

7

みんなが避難できる高台まちづくり

かつて江戸川区は、台風や大雨による水害にたびたび見舞われてきました。区の歴史は水害との闘いと言っても過言ではありません。その後、放水路の開削や堤防整備、高潮対策、下水道の整備、排水ポンプ機能の強化などを進め、今では多少の台風や大雨では大きな被害が生じない、災害に強いまちになってきています。

しかし、近年は台風の大型化や線状降水帯の発生など、気象状況が大きく変わる中で、最大のリスクへの備えを強化し、区民の生命・財産を守っていかねばなりません。



建物による高台まちづくりによって
実現される将来のまちの姿
(イメージ)

そこで区は、みんなが避難できる高台の整備（高台まちづくり）を進めています。これは震災時のみならず、水害時にも安全に避難することができる環境を整えるものです。公園の高台化や高規格堤防の整備のほか、中高層の建物と建物をつなぐデッキを整備する手法などがありますが、これからもまちの将来像を区民と共有しながら、対策を推し進めていきます。

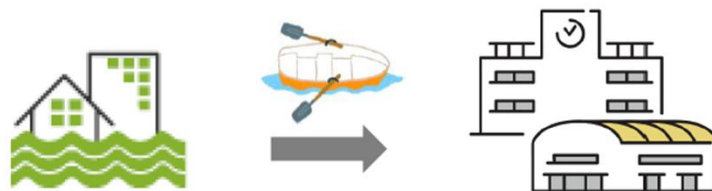
防災

8

浸水被害を最小限にいとめるまち

区では、さまざまな対策（P.73、74参照）を推し進め、水害時に浸水しないまちづくりを進めていますが、1,000年に一度程度の確率の水害が発生した場合、現状では浸水被害が2週間以上続くと言われています。そうした最悪の場合を想定すると、ポンプ施設の耐水化・機能強化などの対策に加え、水位上昇に備えた避難用ボートの整備も進めていく必要があります。

ボートによる避難は、水害が発生した地域の住民にとって重要な避難手段となりますが、ボートそのものや操作できる人材の確保、燃料、食料などの備蓄が重要になります。水位が上昇した住居などから避難所となる学校施設を結ぶ、重要な避難手段として、その確保・充実に努めていきます。



防災・防犯

9

災害対応・防犯に欠かせない地域の力

災害対応に必要な要素は、「自助・共助・公助」と言われます。ただし、大きな災害の発生直後には、「公助」の前に「自助・共助」がいかに機能するかが、人々の生命を救うポイントになります。

区ではこれまでも救助や物資の供給・輸送などに関して、地域の企業・団体と災害時の協力協定を結んでいます。2100年を見据えるにあたっては、その実効性を担保し続ける取り組みが必要になります。こうした取り組みを前に進めるためにも、協定団体との連絡調整が機能するよう連携を密にするとともに、新たな企業・団体との連携を模索していきます。



防犯においても、防犯カメラなどの機器で抑止効果を高める方法もありますが、何より地域の「人の目」こそ、まちの治安を改善するものです。町会・自治会などを軸に、企業・団体などを巻き込んだ防犯活動が展開できるよう、協力体制を築いていきます。

防災・防犯

10

災害対応・防犯に係る新技術の活用

近年、防災の面では災害の頻発・大規模化などが、防犯の面では犯罪の手口の多様化などが課題になっています。このような状況に対処するための、災害・防犯対策に係る新技術の開発が進んでいます。

災害対策においては、高所カメラやドローンの活用、人工知能による災害予測、耐震・免震技術や通信技術の向上などが顕著です。



防犯対策においても、人工知能による分析やセキュリティ技術、カメラ機能の向上などがあります。



区では、人を中心とした災害・防犯への取り組みに加え、こうした新技術の活用を進め、区民の生命・財産を守る取り組みを強化していきます。

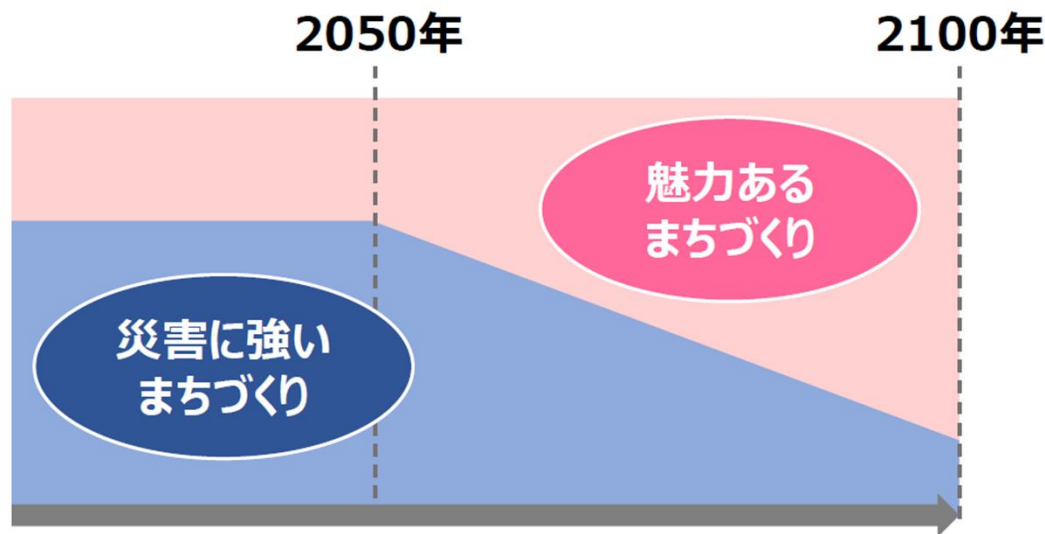
「不安な未来」を「明るい未来」に変えるために ～明るい2100年を迎えるために大切な視点～

キーワード②

「まち」
・災害に強いまち
・魅力あるまち

区民の安全・安心を守るため、現在進めている「**災害に強いまちづくり**」は、今後も継続して行います。それが完成形に近い形になるのが2050年頃と見込んでいます。

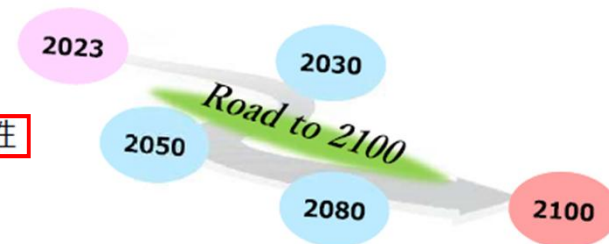
そこからは、人口や財政状況に応じた「**魅力あるまちづくり**」に比重を置いて、まちの整備を進めていきます。



計画の目次

1 はじめに 古くなった施設を そのまま建て替えると...

- 1 このまま2100年を迎えると...
- 2 公共施設再編・整備計画策定の必要性
- 3 対象となる公共施設



2 計画のエビデンス（根拠） 2100年の人口規模を 見据えた施設の規模は？

- 1 江戸川区の現状（人口・財政）
- 2 公共施設の現状と課題
- 3 施設の適正量シミュレーション

3 具体的なポリシー（政策） 今よりも便利で にぎわいのある公共施設を

- 1 これからの施設整備における3つのポイント
 - (1) 時代に合わせた施設の再編・整備
 - (2) 生きがいづくり（文化・スポーツ・趣味）ができる環境の確保
 - (3) 災害対策の充実

4 おわりに 区の魅力とサービスを 高めるために

- 1 新たな施設の整備や誘致の検討
- 2 財政負担の低減に向けた新たな取り組み
- 3 計画の推進に向けて
- 4 策定の経緯



これからの施設整備における3つのポイント

(1) 時代に合わせた施設の再編・整備

(将来世代に負担を残さないために…)

(2) 生きがいつくり（文化・スポーツ・趣味）ができる環境の確保

(3) 災害対策の充実

(安全・安心なまちづくりと災害に強い施設整備)

(3) 災害対策の充実

(安全・安心なまちづくりと災害に強い施設整備)

- 災害に強いまちづくりから魅力あるまちづくりへ
- 安全・安心のベースとなるインフラ施設の適切な更新・維持管理
- 防災拠点の強化
- 建物の防災性能を確保



安全・安心を守り、さらに・・・

本区はこれまでも、災害から区民の生命・財産を保護し、その安全・安心を守るために「災害に強い」まちづくりを推進してきました。2050年ごろにはそうした整備も概ね完了し、その考え方は「魅力ある」まちづくりに比重が移っていきます。

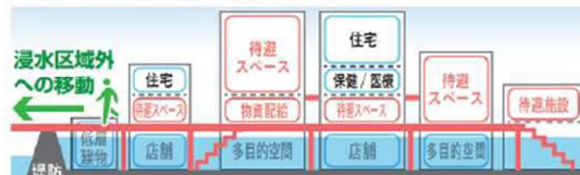
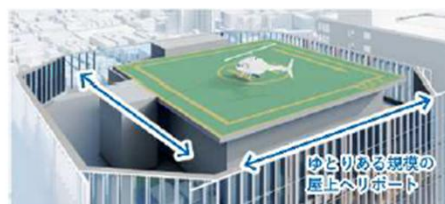
公共施設の再編・整備は、こうした取り組みを前提・ベースとして、さらに安全・安心な整備を進めていきます。



○ 防災拠点の強化

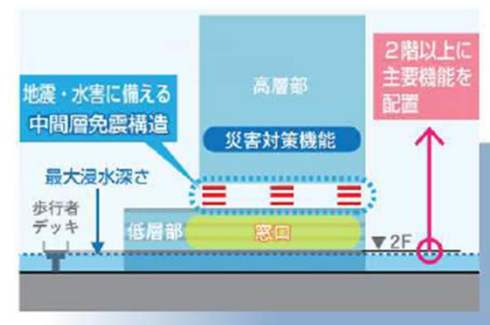
船堀に建築する新庁舎は、区の災害対策拠点として、「**日本一の防災庁舎**」を目指します。災害時の人命確保や復旧・復興に向けた司令塔として、迅速な災害時連携の実現や、区民に向けた確実な情報発信を行います。また、大地震や大規模水害による長期間の自立運用を見据えたインフラ整備や、発災後の被害を最小限に抑えるための取り組みなど、**多角的な視点による災害対策機能を備えます。**

大規模地震、洪水・高潮による大規模水害や、新たな感染症をはじめ、さまざまな災害が発生しても、**区民の安全・安心を守る防災拠点**として機能継続できる強靱な庁舎となります。



役割
・デッキを接続した建物間で人・物資の移動ルートとなる
・浸水区域外への広域避難のための移動ルートとなる

船堀地区では、高台まちづくりの考え方のもと、大規模水害にみまわれ、浸水が継続している状況においても、安全に避難することができる、建物と建物をつなぐ歩行者デッキの整備を推進していきます。



- ・免震層上部に基幹設備を配置
(災害対策本部機能、情報管理機能など)
- ・エネルギーの多重化
(非常用発電、中圧ガス、太陽光発電など)
- ・災害用浄水システム、防災井戸、緊急汚水槽、マンホールトイレの設置
- ・電源、通信回線の多重化

○ 建物の防災性能を確保

区の建物はすべて耐震化を完了していますが、今後も公共施設の建て替えや新設の際は、耐震化に加えて、災害時にそれぞれの施設が果たす役割や重要性、維持管理コスト等を勘案し、望ましい防災性能を備えます。

【避難所機能の充実】

- ・避難所として、避難生活の場となる小中学校は、建て替えの際に機能を充実します。
- ・高規格堤防（スーパー堤防）整備との連携や、屋内運動場や備蓄倉庫を想定浸水の水位以上に設置する等の検討を行います。



かまどベンチ



マンホールトイレ



防災井戸



太陽光発電



ポータブル蓄電池

※シャワー、衛生施設、福祉避難室なども設置していきます

